

放っておけない 高齢者の咳と痰

副院長 呼吸器内科 福田 勉

秋から冬にかけて、気温や湿度が低く体調管理が難しい、風邪をひきやすくなる季節がやってきます。

それとともに呼吸器症状に悩む人が増加してきます。

風邪症状が良くなっても咳や痰が続いたり、毎年同じような季節に咳が出るというような経験はないでしょうか。

病 気やけがなど体の不調に関する自覚的な症状を年齢別に調べると、高齢の方の咳や痰に関する症状は、75歳以上の男性では腰痛、肩部痛などの次に多く、10人に1人が症状を抱えています。高齢女性も同様です。咳が長く続くと体力を消耗したり、日常生活の制限や睡眠障害が生じることもあり、場合によっては、肉体的にも精神的にも大きな影響を与えます。



呼吸器症状を訴えて、開業医の先生や病院を受診する患者さんは、以前に比べて格段に増えています。その中には、呼吸器専門医でなければ、対応の難しい病状もあります。以前より指摘されていることですが、呼吸器疾患が増加している割合には、呼吸器専門医の数は少なく、消化器内科や循環器内科専門

医の1/3とされています。藤沢市は、割合恵まれていて、呼吸器を専門とする開業医の先生や病院勤務の先生が多い印象です。私も、日本呼吸器学会の専門医、指導医です。

咳の原因として多いのが、まずは感冒などによる感染性咳嗽がいそです。

風邪症状が軽快しても、咳嗽や喀痰が続くことがあります。感染後咳嗽といえます。発熱、呼吸困難、胸痛を合併するときは、肺炎、胸膜炎になった可能性があり、抗菌剤投与が必要です。

さらに長引く呼吸器症状の中に重要な病気がかかっている事があります。前回にも書きましたが、8週間以上咳が続く状態を慢性咳嗽と言います。最近、慢性咳嗽を主訴に受診する患者さんが増えています。胸部レントゲン写真やCTで、異常所見のある肺がん、肺結核、間質性肺炎、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患などの疾患と、画像検査では、あまり原因のはっきりしない疾患があります。その原因として、気管支



喘息、咳喘息、アトピー咳嗽、鼻炎や副鼻腔炎による後鼻漏、逆流性食道炎などがあげられます。アレルギー性の咳嗽が多いですが、これらの合併例も少なくなく、悩ましいところです。当院では、6月より呼気NO(一酸化窒素)濃度の測定が可能となりました。呼気NOの値が高いと臨床症状と合わせて咳喘息や気管支喘息と診断できます。体には負担のかからない、安全な、ごく簡単な検査です。

慢性咳嗽で受診する患者さんの5から10%くらいは、治療に抵抗性な難治性咳嗽です。治療が困難な慢性咳嗽には、原因疾患が不明、原因疾患が存在するが治療に抵抗性、原因疾患が不明かつ既知の疾患の治療に抵抗性の3つのパターンがあります。

また、CHS (Chronic hypersensitivity syndrome) という新しい考え方もあります。低レベルの温度、機械的、化学的刺激を契機に生じる難治性の咳を呈する臨床的症候群と定義されています。原因疾患の診断がついていても不明でも、咳の出やすさが、原因疾患よりも咳嗽の根底の原因ではないかと問題とされています。逆流性食道炎など他の疾患も合併しやすく、咳の治療が困難な疾患などが想定されます。

長引く咳は、患者さんにとってもつらく、悪い病気ではないかと心配にもなりますので、どうぞ湘南ホスピタル呼吸器内科を受診してください。ご紹介もよろしくお願いします。

今年度も、6月から藤沢市の健診が始まりました。肺がん検診として、胸部レントゲン写真を撮影いたします。胸部異常陰影を見つけたら、CT等の精査を行います。肺がんは、がんの罹患率、死亡数としては上位であり、私が呼吸器内科医となった40年前に比べて、かなり増加しています。自覚症状が出た時には、進行している場合もあり、早期発見のため是非検診で、まず胸部レントゲン検査を受けましょう。当院では、適応があれば胸部CT検査まで可能です。肺がんは、治療として最初に手術を考えますが、手術できない場合でも、最近は幅広い治療が可能となりました。放射線治療にも、定位照射などいくつかの方法があります。抗がん剤と併用することもあります。化学療法は、従来の細胞障害性抗がん



剤ばかりではなく、遺伝子検査を行い、肺がんの種類にあった抗がん剤を選択いたします。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤です。細胞障害性抗がん剤と組み合わせることで治療し、臨床効果を強くすることもできます。肺がんは、喫煙に密接に関連しており、呼吸器内科医としては、禁煙をいつもお勧めしています。たばこを吸ったことのない女性の方が腺癌という種類の肺がんになることがあります。そういう症例では、遺伝子異常が高頻度に検出され、分子標的薬治療が、かなり有効なことがわかっています。PD-L1という遺伝子異常があれば、免疫チェックポイント阻害剤の出番です。抗がん剤投与はつらいというイメージがありますが、以前に比べ、副作用軽減の薬も改善されました。私が呼吸器内科医になったときは、時代が変化しました。今後は、さらに個々の患者さんに適した治療方針が推奨されるようになるでしょう。

長引く咳があったら、風邪とは限りませんので、特に高齢な方、是非医療機関を受診しましょう。

福田医師の外来診療日

月曜日・火曜日午前、水曜日午前(予約制)